

海域の概要

本港は、奄美大島中部に存在する港で、北部を東シナ海に開いています。港奥には名瀬市があり、奄美大島唯一の市として古くから島の拠点として利用されています。



名瀬港

Specification

諸元

湾口幅：1.76 km

面積：5.03 km²

湾内最大水深：50 m

湾口最大水深：50 m

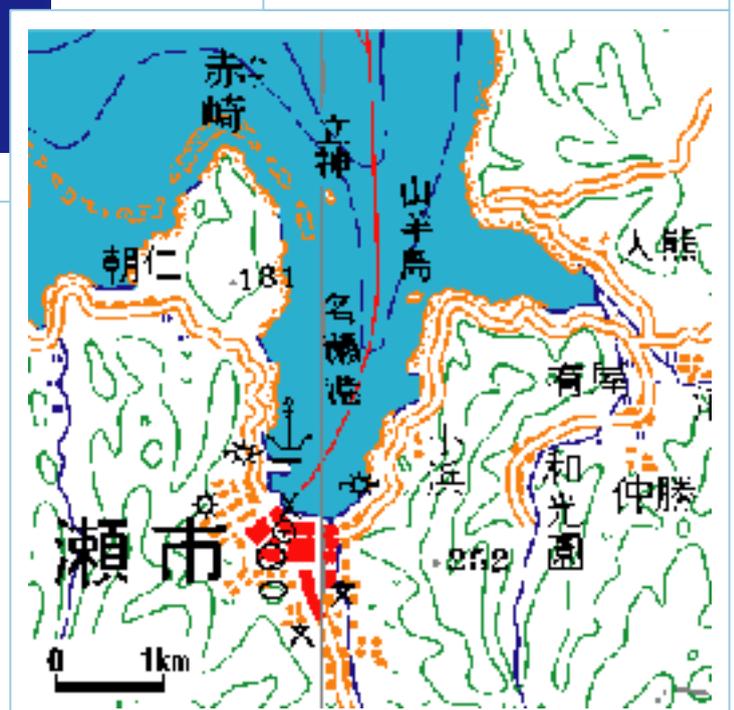
閉鎖度指標：1.27

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

鹿児島県名瀬港立神から 77 度に引いた線、同地点から 257 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。

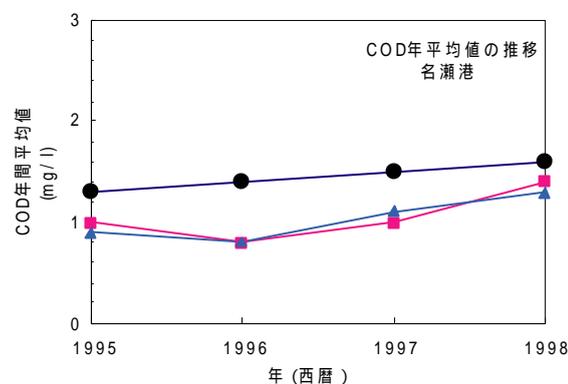


環境

奄美大島の北西部に位置し港口を東シナ海に開いている港で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

港内への大きな流入河川はなく、小河川が数本流入するのみですが、奥部には奄美諸島の中核都市である名瀬市をひかえています。

名瀬港の環境基準は、湾奥部の小浜町地先がB類型となっている他は、A類型に指定されています（平成10年度）。COD年平均值は1mg/l程度で推移していますが、緩やかに高くなる傾向にあります。



自然

名瀬港は、奄美大島における生活及び観光の拠点港湾で、古くから本土をはじめ南方諸国との貿易港として、また奄美群島との間の連絡港として利用されてきた天然の良港です。

湾内の西岸は名瀬港が整備されていて自然景観は残っていませんが、湾の東岸には自然の海岸が残し、山羊島より北側にはサンゴ礁が残っています。また、大浜には大浜海浜公園が整備され、水質もAA判定を維持し、サンゴ礁が波を抑え、ウミガメも産卵に訪れる砂浜で、「日本の水浴場88選」にも選ばれています。

名瀬市の南部、大字朝戸にはスタジイ、ヒカゲヘゴ、シマサルスベリなどを主とする日本一の亜熱帯広葉樹林、金作原が広がっています。林野庁は、1977年に金作原国有林のほぼ半域にあたる125haを自然観察国有林に指定して保全しています。老齢の樹林内には奄美固有の植物や我が国初発見の植物なども見られます。また、国指定天然記念物のルリカケス、アカヒゲ、オオストンオオアカゲラ、アマミノクロウサギ（特別天然記念物）等固有種の鳥、動物が生息しています。

文化歴史

名瀬港は奄美群島の中で最大の島である奄美大島の北西部に位置し、鹿児島港から383km、那覇港から331kmの距離にあり、古くから本土をはじめ南方諸国との貿易港として、また郡内各島の連絡港として利用され、湾奥には約45,000人の人口を擁する名瀬市があります。名瀬港は1954年に重要港湾に指定されています。1956年以降は埠頭が整備され10,000トン級の船の接岸が可能となりました。

産業

名瀬港は、日本の離島の中で、面積が3番目に大きい奄美大島の玄関口です。島内で収穫されたサトウキビ、野菜、切花、及びタンカン、スモモ等を名瀬港より出荷しています。また、クルマエビ、タイ等の養殖による水産品も積み出しされます。観光面では奄美自然観察の森、大浜海浜公園、奄美フォレストポリス等の自然を活かしての施設や、恵まれた自然を探索するエコツアーなど人気があり、特徴的な島歌、八月踊りなどの伝統文化が有名です。



大浜海浜公園